



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

◆特集◆ 全国学力・学習状況調査の結果が公表されました！

平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省より公表されました。

調査開始以来初めて、小学校 4 教科のうち「国語 B」「算数 A」の 2 教科が**全国の平均正答率を上回り**、中学校 4 教科のうち、「数学 A」が**全国の平均正答率と同じ水準**という結果でした。また、8 教科中 6 教科で**全国の平均無解答率との差が昨年度よりさらに改善**されました。

これは子どもたちが粘り強く取り組んだ成果であり、また、昨年度の結果を受け、子どもたちと向き合う教職員が校長のリーダーシップのもと、組織的・継続的に授業改善の PDCA サイクルを確立するなど、学力向上に向けた取組を一層推進してきた成果です！

今年度の結果を励みとして、全ては子どもたちの笑顔のため、未来のために、更に何が必要なのかを考え、授業改善等の取組を一層進めるとともに、学校・家庭・地域が当事者意識を持ち、子どもたちの能力を最大限に引き出すよう頑張っていきましょう！

● ● 各教科の平均正答率 ● ●

		国語		算数・数学		4 教科
		国語 A	国語 B	算数 A 数学 A	算数 B 数学 B	
小学校	全国平均正答率	72.9	57.8	77.6	47.2	63.9
	三重県平均正答率 (全国との差)	71.7 (-1.2)	58.1 (+0.3)	78.3 (+0.7)	47.1 (-0.1)	63.8 (-0.1)
	平成 27 年度 全国平均正答率との差	-2.0	-0.1	-0.4	-0.9	-0.8
中学校	全国平均正答率	75.6	66.5	62.2	44.1	62.1
	三重県平均正答率 (全国との差)	74.4 (-1.2)	64.3 (-2.2)	62.2 (0.0)	43.2 (-0.9)	61.0 (-1.1)
	平成 27 年度 全国平均正答率との差	-0.8	-1.5	-0.1	-1.0	-0.8

● ● 各教科の平均無解答率 ● ●



頑張っ
てい
きましょう！

		国語		算数・数学	
		国語 A	国語 B	算数 A 数学 A	算数 B 数学 B
小学校	全国平均無解答率	5.29	4.62	1.79	7.37
	三重県平均無解答率 (全国との差)	5.05 (-0.24)	4.38 (-0.24)	1.48 (-0.31)	7.08 (-0.29)
	平成 27 年度 全国平均無解答率との差	-0.22	0.02	0.13	0.52
中学校	全国平均無解答率	2.05	4.39	6.30	14.69
	三重県平均無解答率 (全国との差)	1.92 (-0.13)	4.46 (0.07)	5.62 (-0.68)	13.95 (-0.74)
	平成 27 年度 全国平均無解答率との差	-0.17	0.06	-0.48	-0.49



1 学校での組織的な取組

小学校では、昨年度から更に改善が進んでいます。中学校でも組織的な取組（「校長による授業の見回り」、「目標（めあて・ねらい）の提示」、「振り返る活動」等）の改善が見られます。引き続き、小中学校ともに質的な取組の充実を図る必要があります。



小学校

肯定的な回答をした児童・学校の割合は増加しています。目標（めあて・ねらい）の提示の乖離は改善していますが、振り返る活動の乖離には課題がみられます。

	* 授業の目標（めあて・ねらい）の提示 *		* 授業の振り返り活動の設定 *	
	H 2 7	H 2 8	H 2 7	H 2 8
児童	83.0	88.8	71.4	76.9
学校	97.8	98.7	89.9	93.0
乖離	-14.8	-9.9	-18.5	-16.1

肯定的な回答をした児童生徒ほど全教科で平均正答率が高い傾向にあります！

	* 授業の目標（めあて・ねらい）の提示 *		* 授業の振り返り活動の設定 *	
	H 2 7	H 2 8	H 2 7	H 2 8
生徒	75.5	85.5	58.3	68.8
学校	87.6	100.0	87.5	96.2
乖離	-12.1	-14.5	-29.2	-27.4

中学校

肯定的な回答をした生徒・学校の割合は増加していますが、乖離には課題がみられます。



2 キャリア教育

各学校が社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成できるよう、子どもたちや学校、地域の実態に応じたキャリア教育計画を策定するとともに、教育活動全体をととしたキャリア教育の充実が求められます。



小学校では肯定的な回答をした学校の割合が増加し、学校と児童の意識の差が縮まってきていますが、学校の指導が児童の意識向上に必ずしも結びついていません。

中学校では依然、学校と生徒の意識の差が見られます。

小	《児童生徒》 * 将来の夢や目標を持っている *		中	《学校》 * 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている *	
	H 2 7	H 2 8		H 2 7	H 2 8
児童	85.3	83.7	生徒	71.7	71.0
学校	68.4	77.7	学校	98.2	97.5
乖離	+16.9	+6.0	乖離	-26.5	-26.5

3 自尊感情・自己肯定感

子どもの自尊感情も高まっており、大人も子どもの自尊感情を高めることに努めている傾向にあります。学校の取組、適切な評価が児童生徒の自己肯定感を高め、達成感や「やる気」を育てていきます。



	* 先生はよいところを認めてくれる * (新規)	* ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある *		* 自分には、よいところがある *		《学校》 * 学校生活の中で子どもたち一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価している *		
	H 2 8	H 2 7	H 2 8	H 2 7	H 2 8	H 2 7	H 2 8	
児童	83.8	94.5	94.9	75.1	75.5	小学校	97.6	99.4
生徒	79.6	95.1	95.0	69.4	71.3	中学校	99.4	98.8



学校

組織

授業

を一体的に開く取組を通して

山口県萩市立萩東中学校

H28 生徒数 476 人(17 クラス)

萩東中学校の課題

- ・ 不登校、進路未定者への支援
- ・ 発達障がいのある生徒への対応
- ・ 若手教員の人材育成
- ・ 組織力の強化

学校だけでは解決が難しい

H26 年より指定

課題解決!

コミュニティ・スクールの仕組みの中で組織的に推進

学校

を開く

組織

を開く

● 「てごの会」の活動 ～元 PTA による学校支援～

- ① 学校行事への支援
- ② 校舎の環境整備
- ③ 「花生け」活動 等

● 「学校だより」の配付

・ 年間を通して、保護者や地域住民に学校の重点取組事項を継続的に情報提供

● 「土曜塾」～学び直しの機会として～

- ・ 土曜日の部活動開始前 1 時間程度、学習会を実施
- ・ 学習支援ボランティア（メンバー：元校長、保護者、地域住民、高校生 等）が指導

* 生徒の声 *

- ・ 「『わからない』ということを恥ずかしがらずに言えるようになった」
- ・ 「親切に教えてもらったのでわかるようになった」

● 校務分掌組織の見直し

役割分担型から課題解決型へ!

- 教職員組織と保護者・地域住民で構成する学校運営協議会が連動したプロジェクト部会を設定
- 学校の課題に対応!

やまぐち学習支援プログラム

～やまぐちっ子学習プリント～

- ★ 学力向上と家庭学習の充実をめざし、県内の先生方が、問題や教材を作成
- ★ 補充学習や家庭学習で活用

授業

を開く

● 萩東中授業スタンダード

全ての教科・授業で「めあて」と「振り返り」を位置つけた授業実践



- ・ 授業において目標をしっかりと定める
- ・ 学習活動の終わりに毎時間授業評価を実施
- ・ 次の授業にすぐに生かす

- 補充学習・土曜塾 火曜塾もスタート!
- 学校運営協議会委員等による授業参観と授業評価
- 「人材育成ユニット」による授業研究

● 全教科、毎時間、生徒による授業評価

数学科		授業を振り返って					1 年 1 組 24 番 名前 山口 秋子
		◎よくあてはまる ○ややあてはまる △いいえ					
月 日	学習内容	1 授業の内容がわかった	2 先生は丁寧に教えてくれた	3 板書がわかりやすかった	4 授業が楽しかった	5 発言する機会があった	疑問や感想など
5/2	逆数	○	◎	○	○	◎	小数の逆数が難しかった
5/9	除法	◎	◎	◎	○	△	割る数を逆数にして...

- ★ 成果 ★
- ・ 教員も生徒も、毎時間の PDCA サイクルが身に付く
- ・ 発問や板書の改善に「即」役立つ
- ・ 生徒一人ひとりつながりができる

教科論 + 授業論

人 材 育 成 ユ ニ ッ ト	職 業 経 験	取 組	例 えば A グ ル ー プ で は . . .
教職経験 1～3 年 臨時採用教員	・ 授業改善への取組	A 先生 (数学)	
サポーター (教職経験 4～10 年)	・ 研修の日程調整 ・ 研究授業の資料準備 ・ 研究協議の司会、とりまとめ	B 先生 (国語)	
メンター (教職経験 11 年以上)	・ 指導案の作成支援 ・ 研究協議でのアドバイス ・ 学校運営協議会委員への連絡調整	C 先生 (英語)	
アドバイザー (各主任級)	・ 学校運営からの総括的指導 ・ 生徒指導、教務、研修の視点 ・ 特別支援教育からの視点	D 先生 (社会)	
・ 養護教諭 ・ 栄養教諭 ・ 事務職員	・ 教育相談の視点 ・ 食育を通じての視点 ・ 事務室からの視点	E 先生 (養護)	
学校運営協議会委員	・ 保護者の視点 ・ 社会人の視点 ・ 子どもの視点 等	F さん G さん	

- ★ 成果 ★
- ・ 教科や学年の枠を超えた授業論や指導方法の考察等、研修組織での一体感
- ・ 教職経験年数の振り分けにより、役割の認識や自覚が生まれる
- ・ ベテラン教員のモチベーションの高揚、中堅教員の調整力の育成
- ・ 教員からは見えない、多様な視点からの気づきや貴重な意見がもらえる

- ★ 課題 ★
- ・ 授業研究の日程調整や全員での協議時間の設定が難しい
- ・ サポーターとなる人材の配置や役割認識の育成
- ・ 多忙化につながらない工夫

*** 10 月 14 日には、山口 CS コンダクター池田廣司氏を招聘し、「人材育成ユニット研修～次世代の教員を育成するために～」と題し学校マネジメントミドルリーダー研修にてご指導いただきました ***

学力向上に向けた

具体的な実践事例

昭和 25 年から
続いている
校訓

【事例 20】松阪市立射和小学校

「学びあって高まる子を育てる」

～ 聴きあい、つながりあう授業を通して ～

共に育ちましょう

学力向上に向けた具体的な取組

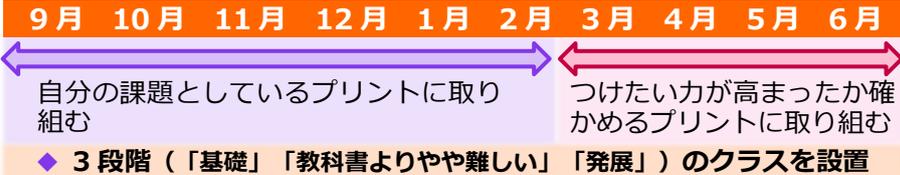


- 課題把握 全国学力・学習状況調査 & みえスタディ・チェック & 松阪市標準学力調査



- 補充学習《「射和っ子タイム」の実施》 → 児童の課題を焦点化し、補充学習の年間指導計画を立てる

対象：4年生以上（全員）
時間：月曜日 6 限目（月に 3 回程度）
教科：国語科・算数科
内容：ワークシート（県）や
教員が準備したプリント



★ 全教員で指導！ → ★ つまずきや指導のあり方を把握！ → ★ それぞれの授業改善につなげる！

少人数指導での具体的な取組

- 算数科の授業において
学習内容を考慮し、最も効果が期待できる指導形態で授業を行う
教科書の指導書や先行事例を参考にして指導形態を決める

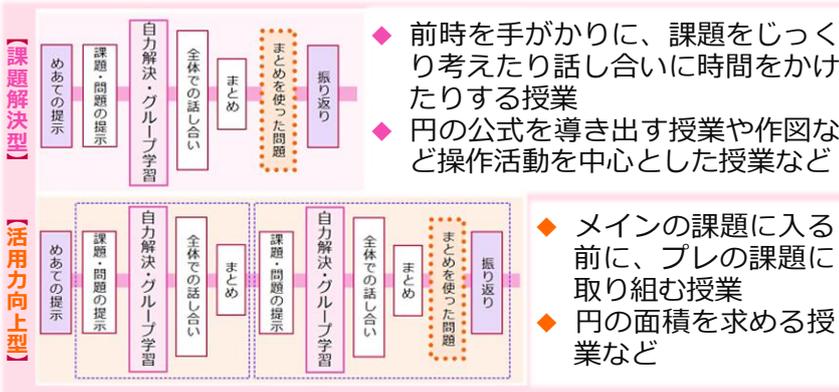
例えば・・・

- ◆ 5年生「分数のたし算とひき算」
5年生「単位量あたりの大きさ」
→ 習熟度別指導
- ◆ 4年生「計算の決まり」
→ 分割指導
- ◆ 4年生「折れ線グラフと表」
→ ティームティーチング



授業改善に向けて学校全体での取組

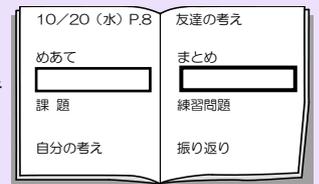
- 2つの授業モデルの構築



- 板書とノート指導

授業モデルを基にすえた板書、ノート指導

- ◆ 板書
全学級で「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の札を使う
- ◆ ノート指導 … 板書と連動
3年生以上は、1時間の授業がノートの見開き2ページにまとまるように！



- 「めあて」と「振り返り」のあり方

◆ 「めあて」の提示

指導者は、本単元に対し「どの学年のどの単元からきているのか」「今後この学習が、どの学習につながっていくのか」をしっかりと把握して「めあて」を定め、授業計画を立てる → 指導案にも明記する

◆ 「振り返り」の活動

- 基本的に自己の考えの変容について書く
- 本時で捉えられたことを今後どのように活かそうとするか、新たな問いなどについて書く
- 本時で明確にならなかったことや話し合いたいことなどを書く



射和小学校長からのコメント

本校では、教職員全員がアクティブラーナーです。子どもたちの課題について、教職員全員が全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック、松阪市標準学力調査を解いたり自校採点したりした後、話し合いながらいち早くはつきりさせています。課題解決のために、今、何が必要で何に取り組まなければならないかを、担当の提案に基づいて教職員全員で話し合います。全国学力・学習状況調査等の結果を受け、修正を加えます。課題解決に向け、まずは算数科を中心に授業改善に取り組んでいます。

校長は、自らが常に危機感を持って、子どもの未来のあるべき姿を念頭に置いて学び続けたり、保護者や地域への発信元にならなければならないと強く思っています。今後も本校の取組を改善し続けていかなければならないと考えています。